

企業名： 大林組

レポート名： コーポレートレポートからの大林組の評価

1. この会社が目指す姿が理解できるか

大林組のコーポレートレポートでは、「目指す方向性」という見出しとともに、2017年から行っている「中期経営計画 2017」を現行のものとして、「Obayashi Sustainability Vision 2050」という未来のあるべき姿を提示しており、とても理解しやすいものとなっていると思う。ただ、この中期経営計画 2017 の具体的な数値が「目指す方向性」のページとは別の「フィナンシャルレビュー」というページに提示されている点で個人的には前者のページに提示されているほうが数値的な理解がしやすく分かりやすいかと感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「良く、安く、速い」の三箴（さんしん）という創業以来受け継がれてきた精神をはじめとして「地球に優しい」リーディングカンパニーを目指しているということは分かるが、一目で分かる他社との差別化、優位性が理解できるかと言えばそうは言えないと思う。このコーポレートレポートの後半に書かれている「主な受賞・表彰」と大林組が自社の強みとして掲げているものとどのように対応しているのかが分かるように書かれていれば、それが競争優位性として受け取ってもらえると読者の目線からは感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

持続性を考えるうえで、持続性が今まで保たれてきているかが1つの評価基準になると考える私は、それぞれの分野での継続的評価が事業報告の欄で TOPIC から見て取れる部分があることは評価できる点だと思った。SDGs の項目を事業ごとに分類している点も、目標の1つに SDGs の達成を掲げている企業としての努力が感じられてよい。ただ、それら事業も年表のような時系列での掲載をすると「持続性」という点でこれからの期待できる内容になると思った。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

このコーポレートレポートには、「品質向上のための教育・啓発活動」という欄がある。様々な専門分野の体験型研修を実施していることは人的資本の価値向上をさせている1つの活動だと評価できるだろう。年に1回の品質週間によって品質のフィードバックを行っている活動は、顧客の満足度や評価をあげることにもつながるうえに、業務の見直しを図る機会になっている点で、人的資本の価値向上だけでなく会社の信頼性や社会的評価の向上も図れるものであると思えた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

上で述べてきた通り、会社の目指す姿を提示する際に具体的な数値もともに提示するのが直感的な理解のしやすさが増すと思う。また、競争優位性の強調があったらさらに内容の良い報告書になると感じた。そのためには、過去の受賞・表彰歴と掲げる理念との関連を時系列にしてまとめることが必要だと思った。